



四万十ヒノキが使用された平屋建てのコミュニティセンター

「松葉川コミュニティセンター」完成

松葉川地域にある三堰キャンプ場（作屋）近くに、松葉川コミュニティセンターが完成しました。3月29日の落成式には、住民や町の関係者、工事業者などが参加し完成を祝いました。

松葉川地域には、これまで地域全体のコミュニティ施設がなかったことから、今後は地域コミュニティ施設として、また防災施設としてさまざまな用途での活用が期待されています。

本施設の愛称「松葉の里」は、地域の皆さまから募集し決定したもので、この愛称と共に、地域の交流の場として皆さまに親しまれていくことでしよう。



「字を丁寧に書いてもらいたい」と258セットが寄贈

児童へ「もんちゃんえんぴつ」寄贈

今年も町内の小学1・2年生に、「筆育もんちゃんのちゃんともてるさんかくえんぴつ」が寄贈されました。寄贈したのは、(株)田邊建設、四万十うなぎ(株)、宗崎幸子さんのお三方で、4月2日、町役場で贈呈式が行われました。

この「筆育もんちゃんえんぴつ」は、高知市の絵本の店ココ・サンが考案。指をどこに置けばよいのかを意識しやすいように、「イラスト」が付けられています。今後、ココ・サンによる「えんぴつの持ち方教室」が各学校で開催され、鉛筆を正しく持つための魔法の呪文を唱えながら、楽しく学んでいきます。



窪川小の窪添泰平校長(左)と窪川署の芝洋輔刑事生活安全課長

新1年生へ「防犯啓発用文具」寄贈

今年度、町内の小学校へ入学した新1年生71名へ、窪川警察署と四万十町地域安全協議会より「防犯啓発用文具（鉛筆・消しゴム・定規）」が寄贈されました。

この取り組みは、小学校入学を機に一人で行動する機会が増える新1年生を対象に、毎年行われているものです。寄贈した文具を日常的に使用してもらうことで、子どもたちの防犯意識を育むことを目的としています。



フィナーレは感謝の気持ちが込められた恒例のもち投げ

道の駅めぐり窪川「26周年創業祭」

「ありがとう」の気持ちを込めた「道の駅めぐり窪川開業26周年創業祭」が4月20日、道の駅めぐり窪川で開催されました。大人気の「豚まん」やみるく工房の「アイスクリーム」が当日限定価格で販売されたほか、特設会場には移動動物園も登場。家族連れを中心に昨年を上回る人出でにぎわった会場は、おいしい香りとたくさんの笑顔で包まれ、思い思いに素敵な時間を過ごしていました。

これからも地域に愛される道の駅として、感謝の気持ちを新たにしたい一日となりました。



報告会に参加した受講生と関係者の皆さん

「地域ビジネス最終報告会」開催

町では起業創業を考えている方への支援として、「地域ビジネススタートアッププログラム」という講座を実施し、3月16日に最終報告会を行いました。活動の応援者や仲間を得ることを目的に、受講生6名がそれぞれのアイデアを発表しました。

また併せて、「町営塾じゆうく。」の取り組みの一環として、高校生3名が自分の興味関心をテーマとした発表を行ったほか、立命館大学生による地域課題解決の提案発表も行われました。来場者から質疑や意見も出され、町内の活性化の取り組みを皆で考える有意義な時間となりました。



満開の桜の下でたくさんの方がお花見を楽しんだ

最後の「家地川桜まつり」開催

約300本のソメイヨシノが楽しめる四万十町の桜の名所、家地川公園で3月30日、「第30回 家地川桜まつり」が開催されました。来年以降、家地川ダム改修工事の計画があり、一部の桜が伐採・移植されることから、今年の開催をもって、ひとまず最後となるこのイベント。

地域住民によるうどんや鮎の塩焼きなどの出店のほか、ステージ上ではJAM踊りクラブの踊りや、大道芸パフォーマンスの披露も。訪れた方は四万十川に映える桜に心癒されながら、春のひとときを楽しんでいました。



受賞を喜ぶ田村梅一さん(左)と今西すすみさん

「四万十にこここ応援隊」県民表彰受賞

優れたおもてなしで魅力ある観光地づくりに貢献したとして、「四万十にこここ応援隊」が、令和6年度高知家おもてなし県民表彰を受賞しました。

令和3年9月に始めた観光列車のおもてなし活動が高く評価されたもので、当時、毎週末に窪川駅でメンバーが仮装し風船を両手に、列車と並走しながら笑顔で手を振るおもてなしが観光名物に。

3月31日に町長を表敬訪問したメンバーの田村梅一さんと今西すすみさんは「お客さんが喜んでくれることが何よりうれしかった」と、笑顔で受賞の喜びを語ってくれました。



「思いやり、譲り合いの意識が大切」と話した窪川署の南和也署長

交通事故ゼロを!「春の全国交通安全運動」出発式

高齢者の事故防止などに重点的に取り組む「春の全国交通安全運動」の出発式が4月7日、窪川警察署駐車場で行われました。

出発式には、町内の保育園児や警察官、交通事故防止活動に取り組む各関係団体など約50名が参加。参加者らが交通事故ゼロを願って、青空へ一斉に風船を飛ばした後、園児たちは順番に白バイにまたがり大喜びする場面も。

また、街頭で行われたドライバーサービスでは、警察官や関係者らが笑顔で交通安全を呼びかけ、事故防止に努めました。